SABU'S
N.Y.

David　Nyzio紹介

Bio-Technoの混成系

高祖岩三郎

no.2

私達の様々な思考の内には、モデルとしてのメタファーが存在している。多くの場合、それは自然であるか、あるいは機械であり、対立を形成するとされる。美術に於ても、Organic(Bio-morphic)なイメージとgeometric(systematic)なイメージの強張の間には、どのように複雑に理論化されていようとも、そのどちらかに属し、相手に対立し始め、もう元へは戻りようがない姿勢が、はっきり見えることがある。美術を一つのディスクールと見れば、その二つの闘争をパフォーマンスとして、言わば、本質的には手を組み合って美術をより面白くしてくれるコラボレーションとも見えて来るのである。ことは美術のみならず、文明が今日迎えている状況に於ても、このDichotomyが本質的なものでないことが明かに成りつつある。私達はしばしば、対立せざるを得ないBio-technoの共成系を生きているのであり、どちらかを選び、他を排することは出来ない。さらに私達にとっての自然とは、もはや発見される(found)ものではなく、テクノロジーとの関係の内での生産(production)行為とし考えられなく成っている。

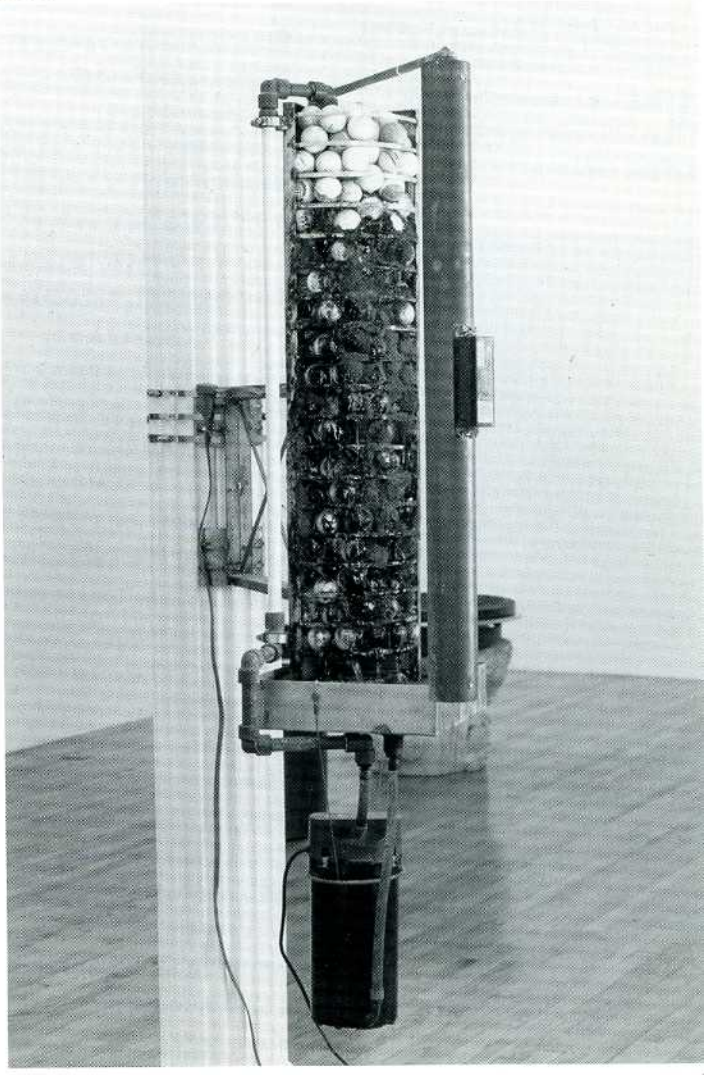
こうしたBio-Technoの混成系を、一つのプロセスとして、様々に作品化しているのがDavid Nyzioである。この88年頃からニューヨークで発表を始め、批評的関心を集中的に勝ち取った、1958年生まれの逸材について、この小欄で十分論じ得るべきもないが、何人かの批評家のコメントを断片的に引用してみよう。

" Nyzioの諸機械は、生命の細片を再生産する。それらは芸術生産をある種生命を維持する機構に変換するのである。" (Catherine Liu)

" (Nyzioは)現代の錬金術師であり、彼の中には中学生の科学者と詩人が同居している。" (Michael Kimmelman)

" 生命、再生産、死という循環構造こそが、彼の中心的関心である。そしてこの展覧会では、とてつもなく美しい作品から、吐き気をもよおす程醜い作品までが網羅されている。" (Post Masters Gallevy Press Release)

" David Nyzioのプロセスを提示するアッサンブラージュでは、あたかもそれらの相互依存が一度も疑われたことが無かったかのように、自然と産業が合成されている。それらは美と残酷、そして芸術（あるいは文化）と生体系破壊をつなぐリンクである。" (Eleauor Heartaey)

" この作家にとって、フォーマリズムとは自然界の循環系に似て、様々な終着点が、同時に別の視点からの新たな出発点として機能するような、同時発生的な諸段階の連鎖系なのである。" (Laura Cottingham)

写真作品のPerfect Progression of Rauclom Spacing. 1989では水が循環する容器の中いっぱいにゴルフボールがつめられている。そしてそこでは同時に、藻が培養されていて、見る度にその量は殖える一方で、だんだんとゴルフボールが見えなくなって行く。様々な読み方をいざなう作品である。彼の素材には、その他様々な昆虫や植物、そして鉱物もある。そしてそれらの生と死。一つの死も、またその他の生であり得ると言うこと。ああ無情の快楽。